

一般の中小企業退職金共済制度の予定運用利回りの
検討に当たっての論点

一般の中小企業退職金共済制度の予定運用利回りの 検討に当たっての論点

一般の中小企業退職金共済制度（以下「中退制度」という。）の予定運用利回りの検討に当たっては、

- 制度の財政が健全であることが、制度運営に対する信頼を高めること
- 予定運用利回りが高いことが、制度の魅力を高めること

に留意する必要があるのではないか。

具体的には、次の状況を踏まえて検討する必要があるのではないか。

① 運用状況

近年の運用状況は比較的良好であり、予定運用利回り1.0%を大きく上回る運用利回りを確保できてきたが、平成19年度については直近の運用利回りがマイナスとなっており、単年度で損失が生じる可能性が高くなっている。

② 財政状況

平成14年の改正以来、運用環境が良好であったこともあり、順調に累積欠損金は解消し、平成18年度末現在で約151億円にまで減少してきているところであるが、直近の運用環境の悪化により、現時点では累積欠損金の解消のめどが立たなくなっている状況である。

③ 他制度との比較

現行の予定運用利回り（1.0%）は、他の退職金制度と比較しても、特別見劣りする水準とはなっていない。